

聖霊降臨の主日

第一朗読 使徒言行録 2・1-11
第二朗読 ガラテヤ 5・16-25
福音朗読 ヨハネ 15・26-27、16・12-15

2024.5.19 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

子どもたちを愛している保護者の人は——お父さん、お母さん、その他の保護者の方は、大きく分けて二つの方法で愛していると思うんです。一つは、子どもたちが必要なものに事欠かないように必要なものを整えたり、また危険な目に遭わないようにそういう危険を遠ざける——子どもたちに必要なものを与え、また、保護するっていう形です。

もう一つは、将来、子どもたちがそれぞれの人生の段階で自分自身の力で問題を克服し、そして自分の人生を生きていくことができるようにいろいろなことを身に付けていけるように、子どもたちの内的な成長といいますか、教育といいたいしょうか、自分自身で出来るようにいろいろ教えてあげる、またその機会を与える、という二つなんだと思います。

そのどっちかだけではうまくいかないし、また、その配分に今のお父さんやお母さんは頭を悩ましてるんだと思うんです。すべてを全部整えて「あなたはなんにも心配しなくていいの。全部やってあげるから」っていうことだけだったら、そういう人がいたとしたら——想像してみると——その子は将来、いろんな形で体験するはずの人生の味わいとかほんとの喜びとか、そういうことに出会えなくなってしまふのではないかなあって心配になります。

一方で、最初から「全部自分でできるようになりなさい、将来困らないように」っていうことばかりだったら、子どもたちは自分がはたして愛されているのだろうかというか、なんにも心配しなくて、そして包まれているっていう人生の土台と言いたいしょうか、それを形成することができないとよく言われます。何かを成し遂げて、それなりの者であるっていうことを示し続けなければならないみたいな、そういうような強迫的な感じを受けてしまう、と。

神様のわたしたちへの愛も、やはりこの二つの方法というか、二つの道を通して愛されていると言っていると思うんです。むしろ、人間が誰かを愛するっていう、その愛し方は、神様がわたしたちを愛してくださる、その愛し方をかたどっているものですから、むしろ神様のほうが本家というか、もともとの愛の源なわけですけど。やっぱり、必要なものを与え、そして危険から守るっていう、その形での恵みもあると同時に、一方でわたしたち自身が周りの状況に依存して、良いものがあたえられるときには幸せ、そうではないときにはもう立てない、っていう

ようなことではなくて、どんな時にも自分自身で歩いていけるように内的に変えていく、その両方なんです。

例えば、今日の第二朗読は「ガラテヤの教会への手紙」でしたけども、その中で「霊の結ぶ実」っていうのがありました。「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」（ガラテヤ 5・22-23）これは、こういうことを示してくれる人に出会えるならばわたしたちは幸せです。けれども、愛や喜びや平和を与えてくれる状況や人、あるいは自分に対して寛容で親切で善意をもって誠実で柔和で節度をもって接してくれる、そういう人がいればいいなあっていうことだけを望んでいるのではなくて、自分自身がそういう者になっていくときに、ほんとの人生の幸せを創り出していく者になるわけです。

神様の愛、神様からの恵み —— いろんなものを、必要なものを与え、そして危険から遠ざけてくださるっていう恵みだけを待ち望んでいる人は、今日の聖霊降臨の祭日は関係ないことになるわけなんです。今日の聖霊降臨の祭日でわたしたちが確認している、神様からいただく恵みっていうのは、わたしたち自身が聖霊によって変えられて、そしてイエス様のように、自ら霊の結ぶ実である愛や喜びや平和を、また寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制を自分の中に実現していくことができるようになる —— イエス様と離れてっていうことじゃありません、絶えずイエスと共にです —— イエスと共に自分自身でこの人生を自分のものとして歩む者に変えられていくっていう、二番目のほうの愛し方の神様の愛、聖霊を通して絶えずわたしたちを成長させてくださるといふ、その愛、その恵みなわけです。

今日、わたしたちは、聖霊降臨で弟子たちに与えられた聖霊はいつもわたしたちに中において絶えず導いてくださるといふことを思い起こし、聖霊に祈るっていう心を新たにいたします。それは「いろんな外的なことを整えてください」ということではなくて、外的なことはそれぞれいろいろな良い状況もあれば難しい状況もある、しかしその中でわたしたち自身が霊の結ぶ実を实らせる、それをいただくことができるように、自分自身が少しでもイエスのように、イエスと共に歩む者に変えられていく、その恵みを願い、またそれは与えられるんだっていうことを確認するのが今日の典礼だと思うんです。

わたしたちはいつも聖霊に導かれています。ですから、それぞれ振り返りながら、自分の今の状況の中で霊の結ぶ実っていうのが実っているのかな、あるいは少しずつでも育っているのかなと振り返ってみる。だから、「ガラテヤの教会への手紙」のこの部分を暗記してというは大変ですけど、ちょっと心に留めて振り返りの材料にするっていうことは役に立つんじゃないかと思えます。そして、それを自分の力ではない、神様と共に、聖霊に助けられながら一步一步その実りを結ぶように歩いていくのだ、イエスと共に、イエスに支えられながら、それを信じています。

わたしたちが今日聖霊降臨を祝います。その聖霊の導きに絶えず信頼する。神様が外的な恵みだけではなくて、わたしたち自身を変えてくださることを通して、本当の人生のすばらしさに出会うように促していらっしゃる、その呼び掛けを思い出

しながら、今日ここに集められたことを感謝して、このごミサを共にお捧げしていきたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>